# 特集 大森山にあった「淡水魚の聖域」～塩曳潟の水生生物調査から～

▲大森山山頂を望む調査地塩曳潟

現在、動物園が取り組むべき自然環境保護は、展示動物を通しての多様な自然環境の重要性を訴えるだけではなく、種の保存等に結びつくような、より具体的な活動が求められています。今回は、園内にある塩曳潟の水生生物調査を通して、自然環境の保護について考えてみました。

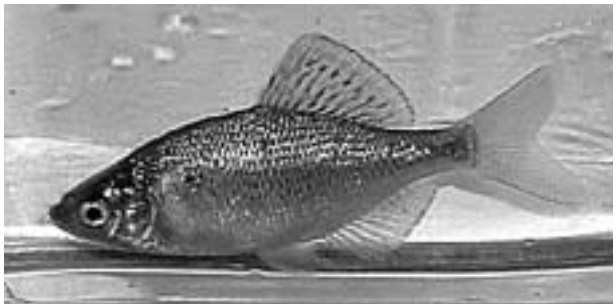
獣医師　高　橋　広　志

## 塩曳潟をのぞいてみると…

去る９月11日に園内にある塩曳潟の水生生物調査を行いました。目的は、絶滅が危惧されている淡水魚の生態を調査し、希少淡水魚の保護に結びつけるためです。秋田淡水魚研究会等の方々の協力を得て、池に定置網やもんどり（網かごのようなもの）などの仕掛けを設置し、かかった水生生物を調べると様々な魚の中に、環境省で作成しているレッドデータブック（※）に掲載されているゼニタナゴやシナイモツゴなどが生息していることが確認されました。

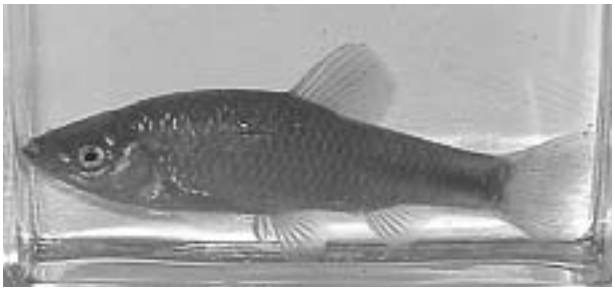
## 塩曳潟で確認された淡水魚

### ゼニタナゴ



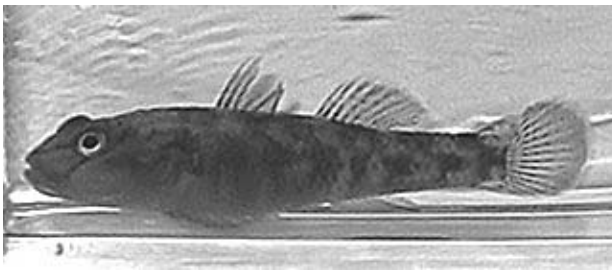
神奈川県、新潟県以北の本州に分布し、浅い湖沼や池、水草の繁茂する水路などに生息、日本産のタナゴ類の中で最も鱗が細かいのが特徴です。秋にドブガイなど二枚貝に産卵します。秋田県内では、ほんの数ヶ所しか確認されていません。

### シナイモツゴ



東北、中部地方の一部に分布、ため池や水路などに生息します。水草の茎や水中の小枝などに産卵し、雄が縄張りをつくり保護します。ゼニダナゴ同様県内では、絶滅が危惧されています。

### トウヨシノボリ



日本各地に生息、俗称ゴリと呼ばれています。形態はごく一般的なハゼの形をしており、腹鰭は変形して吸盤状になっています。タナゴが産卵するドブガイ（塩曳潟に生息）の増殖に深くかかわります。